

閉館ご挨拶

奈良県立奈良図書館

館長 古川 禎 俊

奈良県立奈良図書館及び奈良県立橿原図書館の両館は、本年3月末をもって閉館することになりました。閉館後、平成17年度中に（仮称）「奈良県立図書情報館」として、発足する予定です。

奈良県立奈良図書館は、日露の戦役、そして県民の知識を背景として、明治42年県民の知識欲等の要望に応えるため、「奈良県立戦捷記念図書館」として、奈良公園興福寺境内に開設されました。以来60年の足跡を残した旧館時代を経て、昭和43年に建設された県文化会館に移設され、内容外観ともに近代公共図書館として定着しました。この間、終始時代に即応して県民と共に歩み県民の知的学習の中心機関として、その使命を果たしてまいりました。

一方、奈良県立橿原図書館は昭和15年（紀元2600年）全国的に記念の催しが行われましたが、

本県はその中心地でありました。その記念事業の一つとして、国民精神作興の見地から、橿原道場が設置され、その一角に橿原文庫が創設されました。そして昭和45年に橿原文庫が県立橿原図書館として独立しました。当館は一般利用者や県内公共図書館等からの多様な資料・情報要求に対処し、奈良県の中南和地域に根ざした県立図書館の機能充実に努めてまいりました。

その後、インターネットが加速度的に普及していく中、平成7年「奈良県立図書館整備基本構想」が策定されました。「知の再生産の場」として「多様な情報メディアを透過的に利用できるシステム」、「誰もが新たな情報を創造・発信できる環境」、「利用者の情報活用をサポートできる職員」という三つのサービスの要素を配備して、それに基づいたハイブリッドなサービスを展開することを計画して建設が具体化され今日を迎えています。（仮称）「奈良県立図書情報館」につきましては、本報にその概要を掲載しております。

なお、新しい施設のオープンまでは、期間もあり大変なご不便をおかけいたしますが、更なる飛躍のためにご理解を賜りたいと存じます。

長年にわたり、ご支援・ご協力をいただきました皆様方に、厚くお礼を申し上げ、閉館のご挨拶いたします。



- 閉館ご挨拶 1
- 奈良県立奈良図書館、奈良県立橿原図書館
閉館にあたって 2
- 奈良図書館の現況 4
- 橿原図書館の現況 8
- 奈良県立図書情報館について 9

奈良県立奈良図書館、奈良県立橿原図書館

30 年前の県立図書館

春日大社参事 大 東 延 和

県立奈良図書館の創立百周年を数年後にひかえ、新しい図書館が間もなく移転開設されようとしている今日、曾て私が勤めていた頃の思い出話でもと原稿を頼まれました。

昭和 47 年 (1972) から館長としては長い方の 5 年も勤めれば、少々はまとまった仕事もできたらう、と思われそうだが、今、ふり返ってみて、これといった見るべき成果もなかったことに、内心忸怩たるものを感じずにはおれない。

ただ、強いて言うならば、その頃から県立 2 館 (奈良・橿原) と市町村立図書館との図書館ネットワーク作りのため、県立図書館の蔵書目録の出版と、移動図書館車の増加に努め、その端緒を取りつけたこと位であろうか。しかしこれは予算さえ付けば可能なことで、私は知事部局から出向の職員であったため、総務財政当局に知り合いも多かったことから予算の獲得には何かと都合よく、目録は 1 年 1 巻の出版として私の在任中、2 巻まで出版したし、図書館車は 2 台に増えた。

しかしこのような事務的なこととは別に、その当時から、これからの図書館では電子機器時代の到来が予測されていた。

もっともそれが具体的にどのような形、機能のものなのか、メカに弱い私には知るよしもなかった。ただ、ボタンと電子文字の並んだ機械での読書では、「燈火親しむべき候に木版の和装本をひもとく」といった読書環境は、最早望むべくもなからう。

それよりも何よりも、今後益々豪華大部になる傾向の洋装本や、金属製の機器という物体はやたらと重量を増し、逆に文字は小さくなる一方で、重い物や視力の弱い老人、つまりこれからの高齢化社会の読書には、どう考えてもなじまず、老人は本を読むなといわんばかりの社会になりにせぬか、それが心配である。

当時、『奈良公園史』の編集委員も仰せつかった私は、その会議の席上でこのことを話し、活字はできるだけ大きく、本は分冊して、書架から楽に出し入れができるよう配慮することを提言したことを覚えている。読書の「書」が和装本から洋装本、そして将来の電子本へと変化して行くのは必定としても、その「読」の心だけは将来にわたって変わらないようにしたいものである。そんな気持ちでいた私の図書館時代であった。(元館長)

永かったなあ～

中 村 幸 徳

昭和 43 年奈良公園の興福寺境内から、現在の文化会館に引越した図書館は、今、また新たに生まれ変わろうとしています。

昨年暮れに、所用で大安寺の建設現場を通りがかり覆いの取れた新しい図書館を外から拝見しました。なかなか堂々たる建物で長年の夢が実現できて本当に嬉しく感じました。43 年当時、5 月の開館に備え土蔵のような書庫で、図書や新聞等を梱包し、夜遅くまで即席ラーメンを啜りながらがんばった事が思い出されました。

当時は、全国的に併設館が流行し、その時流にのった図書館で、旧館とは比べものにならない近代図書館? に一変した。が、どうもイマイチで、管理部門は、地下 1 階、サービス部門は、2 階に別れており閲覧室はウナギの寝床まるで奈良町の民家のように細長く、開架冊数も 1 万冊弱ぐらいだったかと記憶しています。蔵書も 15 万冊(公称)程度で、多様化された利用者の希望にはとても応え切れないのではと、懸念された。案の定、昭和 50 年半ばから職員間で新館待望論が出はじめ、奈良・橿原両館の職員が集まって幾度となく討論を重ねましたが、県当局の理解を得ることが出来ませんでした。その後、紆余曲折を重ね「奈良県立図書館整備基本構想」がまとまったのは、平成 7 年 3 月でした。バブル経済は崩壊し、地方財政は逼迫した情勢の中、土地の選定や建設のため発掘調査等を経て、工事が着工されたのは、生涯学習課に新図書館建設の専任の係が設置されてから 10 年以上経過した平成 15 年でした。その間図書館職員は言うまでも無く、財政当局と現場の図書館との調整、また利用者や県内市町村図書館との調整等々、生涯学習課担当者のご苦労は察するにあまりあるものがあつたと思われます。

いよいよ今秋には新館がオープンされます。

今度こそ、最新情報機器を備え「守り」から「攻め」に転じた近代図書館です。38 年前の轍は踏まず、利用者の期待に応え大きく発展して行く事でしょう。(元次長)

閉 館
を思つて

奈良県立同

和問題関係資

料センター所長

吉 田 栄治郎

明治 42 年 (1909)

11 月に開館した奈良

図書館は当初の館名を

奈良県立戦捷記念図書館

とした。戦捷とは「戦いに

勝つ」という意味であり、紀

念は一般に記念と表記されるが、

思い出というほどの意味である。

明治 38 年 (1905) 12 月の県会決議

によって設置されることが決まったの

だが、決議はポーツマス条約調印の 3 ヶ

月後に行なわれており、当然日露戦争に勝

利したことを記念して作られた図書館という

ことになろう。それならそれでよいのだが、

しかしはたしてそうなのだろうか。開館に

先立ち明治 42 年 5 月 25 日の奈良県令 25

号で定められた規則の第 1 章は、

本館ハ博ク内外古今ノ図書ヲ蒐

集シテ公衆ノ閲覧ニ供シ、古

今書類ヲ保存シテ其ノ散逸

ヲ防キ併三十七八年戦役ニ

於ケル戦病死者ノ遺物・

履歴ヲ蔵置シテ其勲功

ヲ表彰スとする。

設置目的を記したも

のだが、そこには

「三十七八年戦役」、

つまり日露戦争

に勝利したこ

とを記念す

るためと

は記さ

れず、

↑

閉館にあたって

“物”の終わりは“こと”の始まり

川西町立図書館長 益 田 忠 夫

奈良県立図書館で今回予定されている移転は、昭和43年（1968年）に次いで2回目となります。その度に、新しい事業や設備の導入が図られていることを関係資料で拝見し、私は、「図書館は成長する有機体である」というランガナタンの「第5の法則」を思い浮かべました。ランガナタンは、資料、利用者（サービスを可能にする施設も含む）、そして職員の三要素が有機的に結び合って成長し、全体としてある種の機能を発揮していく、と述べています。そして、これら三要素のすべてが物理的な理由で限界に達したとき、新しい器を用意することになる、と私は解釈しました。つまり、「新しい器」は、過去との訣別ではなく、今までとの連続性を保ち、その必然性も「現在地」に有している、と考えられます。

「現在地」に移転された昭和43年は、「経済大国ニッポン」を象徴する年であったと言われ、高度成長と生涯学習への高まりを背景にして、全国で新設館が増え続けていた最中でした。今では図書館数は当時と比べて約4倍、市町村立図書館の貸出冊数は約60倍にもなりました。このような周りの状況変化の中で、奈良県立図書館の職員の方々も、少なからずその影響を受けられ、それぞれが将来の県立図書館像を描かれるようになっているのではないかと推察します。

4月からの閉館、移転作業、そして開館準備の月日が、皆さんの思いを成熟させ、いつしか「新しい器」で結実されることを祈らざるを得ません。

私は公立図書館で働く職員として、新しい県立図書館が、県民に対して今後どのような機能を果たし、積み重ねが行われていくのか、大いに注目をしています。その起点は、近代的公立図書館としての第一歩を踏み出された半世紀以上前の昭和26年（1951年）当時と同じく、今も図書館法にある、と思っています。県民の誰でもが気軽に親しみをもって利用でき、開放的な図書館というイメージのもとで、サービスの基本は、「地域の事情及び一般公衆の希望にそった」（同法第3条）ものであることを期待しています。

↓

戦病
死者の
遺物・履歴
などの思い
出を収め、な
がく「其勲功ヲ
表彰」するためと
いう。戦捷とはい
うもののそこには謳歌は
なく、無念に散った戦病
死者への追悼の念が溢れて
いる。

戦争体験文庫が充実してきたと聞く。これもまた、直接の戦いに臨んだか否かは問わず、先の大戦を体験した人々の記念であり、「其勲功ヲ表彰ス」するためのものだろう。戦捷記念図書館として出発し、今閉館を迎える奈良図書館を記念しつつ、新図書館に引き継がれる確かな「蔵置」である。

最後に規則第1章にあげられながら奈良図書館が必ずしも実現できたとは思われないこと、それは「古今書類ヲ保存シテ其ノ散逸ヲ防」ぐことなのだが、幸いに戦火を受けることのほとんどなかった奈良県には室町時代以降の古文書・古記録が無尽蔵といつてよいほど残されている。奈良県に住んだ幾多の先人たちの「遺物・履歴」であり、先人たちの「勲功ヲ表彰」するものとなる。新図書館で蒐集と保存の措置が講じられることを切に望んでいる。（元館員）

巡回文庫の思い出

田原本町立図書館長補佐 山 岡 佐規子

奈良県には、県立としては珍しく奈良図書館と橿原図書館の2館があり、それぞれが車の両輪のごとく連携しあいながら特色あるサービスを続けてこられました。田原本町は、中央公民館図書室の時代（昭和47年）から長期公民館文庫として巡回車による配本を受け、昭和63年に図書館が開館した後も、約8年間、県立橿原図書館の巡回車のお世話になりました。開館後も本の少なかった図書館の一角に巡回文庫のコーナーを設け、多くの住民の方にご利用いただきました。巡回文庫は、単に本を借りるというのではなく、職員にとってもバスから本を選ぶ楽しさ、また県の職員の方に「こんな事はどうしたら良いのか」などと日常の疑問や運営についての相談に乗っていただく良い機会でもありました。田原本町にも本が増え、県の方も山間部に専念したいとの事で中止になりましたが、懐かしく思い出されます。昭和51年から図書館が開館するまで、3箇所の自治会や子ども会にも巡回車による配本をしていただきました。図書館がない時代に県立図書館としてのきめ細かなサービスを展開しておられたことが伺えます。

平成3年度から4年間、県立を中心に県下の図書館が参加して行なわれていた共同購入による巡回文庫にも参加しました。これは、各図書館の蔵書を補うため、各館が購入した本を参加館に順に回していき1年後に自館に戻ってくるというもので、大阪屋へ年に1度、参加館の職員が合同で直接購入に行き、県立奈良図書館の場所をお借りして共同整理を行ないました。この一連の流れの中で県内の職員の交流がなされ親睦が深まったのは言うまでもありません。

田原本町立図書館も本年11月24日に16年間親しんだ館に別れを告げ、新館として新たな一歩を歩み始めました。県民に親しまれた2つの県立図書館も統合され奈良県立図書館情報館として生まれ変わろうとしています。市町村立図書館も充実してきた今、県立が果たす役割も変わりつつありますが、新たな図書館の開館を県民の一人として待ち望んでおります。

奈良図書館の現況



◀ 図書館受付

閲覧室（成人席・大学生席・参考席、
電卓・ノートパソコン席）、読書室、
学生室、郷土資料室、部屋別席別に
利用券を交付

カウンター ▶

利用登録、貸出、返却、複写、予約、
書庫出納、相互貸借、あらゆる利用の
総合窓口



◀ レファレンスカウンター

森羅万象なんでも調べる心意気

OPAC（利用者用開放端末）▶

端末はインターネットに接続、所蔵資料
のほか県内公共図書館の横断検索など
公的機関の情報検索にも活用



◀ 閲覧室

開架冊数4万冊と手狭なスペースでも、
直接資料の閲覧が利用の要。
座席は指定で一般成人席・大学生席・
参考席に区分



◀ 新着図書コーナー

毎月新着書を配架、利用者は
新着図書をまずチェック

児 童 室 ▶

絵本、児童書、研究書を配架、
幼児から成人まで利用は多彩



◀ 読 書 室

雑誌、新聞、実用書、小説などを
気軽にブラウジング

学 生 室 ▶

夏休み、試験期には満席になり、
席待ちの列も



◀ 「戦争体験文庫」紹介コーナー

平成 8 年に県福祉部福祉政策課で事業開始、
平成 13 年 4 月に奈良図書館に移管、
寄贈された資料の一部を展示



◀ 書 庫

4 層に 27 万冊を収納

郷土資料室 ▶

奈良県に関する資料の宝庫
レファレンスの力強い武器



◀ 郷土資料閲覧室

情報検索用端末、マイクロリーダー、
複写機を置いて利用者の調査
研究をサポート

郷土資料室カウンター ▶

資料請求をうけて書庫と
事務室を駆けめぐる日々



◀ 郷土資料室のコレクション

専用のケースに入った古文書は約 2 万点



◀ 船橋庁舎

県から移管された約 3,000 点の簿冊が整理を終え、新館での活用を待っています。



整理係（その 1）▶

カード目録からオンラインカタログへ、
この 10 年、図書館の仕事は
大きく変化しました。



◀ 整理係（その 2）

図書資料は、整理係で受入、
整理されて蔵書となります。



連絡車（その 1）▶

資料搬送に市町村図書館等を結んで
走る県内ネットワークの機動力



◀ 連絡車（その 2）

貸出資料用コンテナ、搬送日まで待機中



法蓮庁舎▶

整理中の戦争体験文庫資料

橿原図書館の現況



◀ 古風なたたずまいを見せる橿原図書館

昭和 15 年に「橿原文庫」として開設
昭和 45 年に「奈良県立橿原図書館」と改称
しました。

▶ 静かで落ち着いた雰囲気の開覧室

60 年以上にわたり多くの人々に
親しまれてきました。



◀ 児 童 室

利用者に親しまれ、季節感の漂う、
ゆったりした室づくりを心がけてきました。

▶ 郷土資料室（旧万葉文庫室）

「万葉文庫」移管後、行政資料の充実を
目指してきました。



◀ 連絡車「さくら号」

県中南部の公民館等へリクエストのあった本を
届けてきました。

奈良県立図書情報館について

(仮称) 奈良県立図書情報館が、いよいよ 11 月に開館します。



(仮称) 奈良県立図書情報館は、「奈良県立図書館整備基本構想」(平成 7 (1995) 年) より「新県立図書館整備基本計画」(平成 13 (2001) 年) を経て、基本設計、実施設計が行われ、平成 15 (2003) 年 3 月に着工しました。今年 3 月末に竣工し、11 月開館に向け、移転および開館準備作業を進める予定です。

長い歴史をもつ県立奈良・橿原両図書館を発展的に統合し、新しい図書館施設のあり方を提案しながら、大量の情報が行き交う現代社会のナビゲーターとして、また奈良県関係資料をはじめとした多様な情報資源を集積し、県民の情報センターとしての役割を担う新しい施設をめざします。

【概 要】

所 在 地	奈良市大安寺西 1 丁目
敷地面積	31,638㎡
建築面積	4,796㎡
延床面積	11,821㎡
階 層	地上 3 階地下 1 階
主要構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
駐 車 場	バス 5 台、普通車 311 台 身障者用 6 台
開架図書数	一般資料 15 万冊 専門資料 10 万冊
書庫収蔵可能冊数	100 万冊
座 席	410 席



近鉄新大宮駅からバス 10 分 (あかしや公園前下車)
JR 奈良駅からバス 15 分 (恋の窪 2 丁目下車)

* 「県立図書情報館前」バス停 (開設予定)

情報活用から情報創造へ ～さまざまな利用目的に応える施設



パソコンの設置された座席や利用者が持ち込むパソコンによりインターネットなどが利用できる座席など、座席の半数でインターネットが利用でき、また、画像、映像、音声などを編集・加工できる機器、ソフトや施設を用意し、少し高度なことから気軽な創作まで、スキルと目的にあわせて作品制作や編集が楽しめます。



31 台のパソコンを備えたセミナールームをはじめ、語学学習のための LL ルーム、AV コーナー、個室やグループ研修室など目的に応じた施設もあります。カフェテラスでは無線 LAN サービスも提供します。

ここにしかない情報と幅広いレファレンス



奈良県関係の資料・情報を総合的に利用できる「ふるさとコーナー」、戦争中の生活や体験に関わる記録や資料を集めた「戦争体験文庫」をはじめ、国際交流資料など独自の情報資源を整備するとともに、幅広いレファレンスで情報活用をサポートします。

調査研究や情報収集の目的に応じて、情報機器を使ったネットワーク情報や図書などの資料を融合的に利用でき、レファレンスによる資料情報への案内・紹介により、一層効率的に調査研究等が進められるようにサポートします。また、他機関との連携による情報交流やイベントを通じた利用者同士の交流など、人と情報の交流を進めることにより、従来の図書館とは一味違う知的な出会いのある施設を目指します。



詳しくは、奈良県立図書情報館パンフレットまたは“奈良県立図書情報館 ON the Web”
(<http://www.library.pref.nara.jp/newlib/index.html>) をご覧下さい。

奈良県立奈良図書館報 うんてい 第 76 号 平成 17 年 2 月 28 日発行

《編集・発行》 奈良県立奈良図書館 ☎630-8213 奈良市登大路町

TEL. 0742-27-0801 FAX. 0742-27-0865 URL <http://www.library.pref.nara.jp/>